GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
c.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
d.	分類	低炭素水素等
	対象	水素

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	最終製品・サービスの購入・販売
概要	当社は、鉱山内や山林走行等の用途などの制約が大きいため全面的な導入は難しいものの、用途上の制約が小さい場合には電気自動車等の採用を検討のうえ、経済合理性や車両の機能に加えてGX製品を購入することの社会的意義等を踏まえつつ、順次、電気自動車等の採用を進めていきます。

b.	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
対象行動	研究開発・実証
概要	当社は、脱炭素社会の実現に向けて、次世代蓄電池を担う全固体電池に最適な正極材料の開発と実証に取り組みます。

c.	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
対象行動	研究開発・実証
概要	当社は、脱炭素社会の実現に向けて、使用済み蓄電池からリチウムイオン二次電池用原料を提供するリサイクルプロセスの開発と実証に取り組みます。

d.	水素
対象行動	研究開発・実証
概要	当社は、脱炭素社会の実現に向けて、粉体合成・表面処理などのコア技術を基盤に、SOEC（固体酸化物形電解セル）やSOFC（固体酸化物形燃料電池）の電極用の酸化ニッケル粉や、天然ガスの成分で水素キャリアでもあるメタンを二酸化炭素と水素から合成するメタネーション反応のニッケル触媒など、水素社会に資する高効率で低コストな触媒材料の開発に取り組みます。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	Scope 1＋2
目標年度	2030年度
基準年度	2015年度
目標削減率	38%
削減目標における選択対象の位置づけ	当社が使用する社用車を電気自動車等に順次置き換えることにより、スコープ１・２の削減目標（当社グループのGHG排出量について2030年度までに2015年度比38％削減）の達成に直接寄与します。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	2030年度
定量的目標	2台以上
選択対象に関する定量的目標の概要	2030年度までに 2 台以上の電気自動車等の採用を目指します。

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026年10月9日

住友金属鉱山株式会社

代表取締役社長　松本伸弘